大崎の伝統工芸

Traditional Crafts Of Osaki

Naruko Traditional Wooden Dolls

鳴子伝統こけし

あどけなく、純粋な子どもの心を思わせるように微笑むこけし。こけしには雪深い東北の厳しい風土に生きる人々の喜びや悲しみが深く息づいているようだ。文献や伝承によると、鳴子温泉地域でこけしが作られるようになったのは、江戸時代末期と推定されている。鳴子こけしの伝統は、親から子、師から弟子へと従弟制度の厳しさの中で伝えられ、それぞれの特徴が受け継がれてきた。

大きな頭、中程がやや細くなった安定感のある胴と菊の模様は、鳴子こけしの大きな特徴として親しまれている。首を胴に差し込んだ「はめ込み式」の構造で、首を回すと「キュッキュッ」と音が出ることが特徴。

鳴子温泉 **日本こけし館**

☎0229-83-3600 時8:30～17:00（12月は9:00～16:00） 休1月1日～3月31日

Naruko Lacquerware

鳴子漆器

鳴子漆器の創始は今から350年以上も前の寛永年間（1624年～1643年）と伝えられている。その後、岩出山伊達家三代当主伊達弾正敏親が、塗師の田村卯兵衛と蒔絵師の菊田三蔵を京都に派遣して修行させ、鳴子漆器の振興を図ったとされている。18世紀後半に書かれた「鳴子村風土記書出」において、木地挽物と共に塗物が鳴子の産物として記録されていることから、このころにはすでに鳴子の主要産物だったようだ。また、19世紀初頭の「漆出高記」には、鳴子で漆の採取が行われていたことが記録されている。その後幾多の技術革新を遂げながら、現代まで受け継がれてきた鳴子漆器。

魅力は何と言っても、木目を生かした素朴な風合いと、しっとりとした塗りの美しさ。工芸品としての価値もさることながら、お椀、箸、お盆、菓子器など、日常使いに適した製品が数多くつくられているのも鳴子漆器ならでは。木地に厚みがあり丈夫で、幾重もの重ね塗りにより耐久性にも優れているので、愛着を持って長く使用することができる。

鳴子温泉 **鳴子総合支所地域振興課**

☎0229-82-2026 時8:30～17:15

休土・日曜・祝日、12月29日～1月3日

Iwadeyama Bamboo Crafts

岩出山しの竹細工

岩出山第四代城主・伊達村泰公が武士の手仕事として奨励し、以来300年以上作り続けられてきた伝統的な工芸品。柔軟で弾力がある「しの竹」の特徴を生かしたざるやかごなど、さまざまな製品がある。なめらかな表皮を内側に編みこむことで、手なじみも抜群。岩出山の『竹工芸館』では竹製品の製作・実演などが見学できるほか、手づくり体験教室も開催。竹細工指導員の丁寧な指導のもと、世界にたったひとつの竹細工を製作することができる。

またギャラリーには伝統の竹製品をはじめ、ガラス・陶器などを組み合わせた作品・オブジェなども展示。竹の魅力を身近に感じることができる。

岩出山 **竹工芸館**

☎0229-73-1850 時9:00～17:00

休水曜、年末年始